

大仙市アーカイブズ ニュースレター 第11号



大仙市マスコットキャラクター
まるひちゃん

シンポジウム「記録のチカラ ～災害の記憶を次世代につなぐために～」

10月23日、当館5周年記念事業の一環として、シンポジウム「記録のチカラ ～災害の記憶を次世代につなぐために～」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン形式となったシンポジウムには36名が参加しました。

基調講演では、国文学研究資料館名誉教授の安藤正人氏から「記録のちからと草の根アーカイブズ活動」と題し、戦争に関わる国内外のアーカイブズ活動として、沖縄で反戦平和活動を展開した阿波根昌鴻^{あはごんしょうこう}の残した記録や、喪失してしまった中国残留孤児の人権を守る手がかりとなるはずの資料、そうした記録の保存に関する一例として、満州への移民記録が数多く発見された愛媛県魚成村の例などについてお話いただきました。

パネルディスカッションでは、はじめに国文学研究資料館准教授の加藤聖文氏から、大量で多様な戦争・震災資料の受け皿がないことや、役場資料の公開制度が未整備となっている現状などについてお話いただきました。

次に安藤正人氏も交え、災害時の資料レスキューや地域に残された戦争記録の保存状況や残されている意味について御意見や情報提供をいただきました。



パネルディスカッションの様子
安藤正人氏（写真右）
加藤聖文氏（写真左）

戦争・災害の経験や教訓を社会全体で共有するため、記録の保管庫としての役割がアーカイブズに求められているのではないのでしょうか。

日時：令和3年10月23日（土）
午後1時30分～3時30分
形式：オンライン（Zoom）
参加：36名

アーカイブズ講座 平瀬家資料から読み解く戦争の記憶

令和元年度に御寄贈いただいた「平瀬家資料」（中仙地域）には、戊辰戦争や太平洋戦争に関する資料がたくさん残されています。

この平瀬家資料を題材に、12月10日、戊辰戦争と太平洋戦争の記憶を紐解く講座を開催しました。

戊辰戦争時、平瀬家は長野村肝煎を務めていた旧家で、武士だけの戦いではなく、地域を巻き込んだ戦いであったことが、残された資料から読み取ることができます。

参加者からは「同じ町内の平瀬家にこれだけの資料が残されていることを知らなかった」「個人宅資料から戦争を読み解く視点が大変良かった」といった感想をいただきました。



日時：令和3年12月10日（金）
午後1時30分～3時
会場：大仙市アーカイブズ研修室
参加：11名
講師：アーカイブズ職員

5周年記念企画展「ふるさとの災害」 ～展示資料を紹介します～

開館5周年を迎える今年度は、東日本大震災から10年、太平洋戦争開戦から80年の節目にあたることから、「自然災害」と「戦争」をテーマにした企画展を開催しました。企画展は1月末まで開催しています。ぜひお越しください。



期間：R3. 10. 5～R4. 1. 31
会場：大仙市アーカイブズ

■災害の生々しい被害を伝える資料

大正3年の強首地震に関して、被害状況や復旧工事を記した震災事務簿や、震災により倒壊した家屋や避難所などを記録したガラス乾板（ネガフィルムに相当）を展示しています。これらは、災害の生々しい被害を伝える資料です。

そのほか、陸羽地震、昭和40年の豪雨災害、平成29年豪雨などに関する資料を紹介しています。



震災事務簿

強首地震について、村の被害状況が記されている。（大沢郷村役場文書）



8本の立木は、地震後の火災で犠牲になった場所と名前を示している



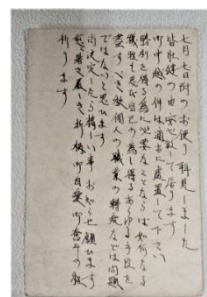
40.7.15 集中豪雨

水害関係資料

集中豪雨による洪水被害調査や写真が綴られている。（大曲市役所文書）

細谷豊司ガラス乾板

強首地震により、淀川村の佐々木家では8名が犠牲になった。



葉書

出征兵士が母に宛てた葉書。送り主である平瀬真一（写真右）は、シベリアに抑留され亡くなっている。（平瀬家資料）



■戦争に翻弄された人々の様子を

様々な視点から

太平洋戦争に関して、戦地から母親に宛てた葉書や、戦時中に書かれた個人の日記など、住民からの寄贈資料を多く展示しています。

そのほか、戊辰戦争の際、大曲で戦死した薩摩藩士を住民が弔った資料や、日清戦争の従軍兵士の書簡など、様々な視点から、戦争に翻弄された人々の様子を読み取ることができます。



田口松圃日記

大曲町長も務めた田口松圃の日記。昭和20年7月14日には「六時前、「ポー」鳴る、直ちに起きて国民服を着…空襲ケイ報鳴る…」とある。当時の息づかいが伝わるような資料。（田口松圃家資料）



刀剣（銘：大道）

戊辰戦争で戦死した薩摩藩士・島津新八郎の埋葬に対して、新八郎の家臣だった吉國孝之助から田口惣左衛門にお礼として贈られた刀。（島津新八郎関係資料）

